

呼吸器内科病棟における転倒転落の要因と傾向

○大島 咲¹、大島 咲¹、佐藤 美和¹、福井 樹子¹、柏倉 真美¹

¹地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院

【目的】呼吸器内科A病棟では、転倒転落アセスメントスコアシートを用いて転倒転落のリスクを評価し、転倒予防対策を行っているが、転倒をなくす事は難しい。そこで呼吸器内科疾患と転倒転落の関係性があるのではないかと考え、転倒転落の要因と傾向を明らかにすることを目的とした。

【方法】2017年4月1日から2018年3月31日の転倒した患者17名のインシデントレポート、主観的包括的評価(以下SGAとする)、転倒転落アセスメントスコアシートを比較し転倒転落に関係していると考えられることを、先行研究を元に研究者間で12項目設定し、その中で変化した項目を抽出し単純集計した。

【結果と考察】転倒した患者の入院時と転倒後のスコアで数値が変化した項目は「認識力」「薬剤」「排泄」「患者特徴」で、「感覚」「運動機能障害」の項目は変化がなく、目に見える運動機能低下がなくても、見当識障害や判断力の低下が転倒転落に繋がることを示している。疾患は肺がんが10名で、内訳として化学療法中3名、医療用麻薬使用中2名だった。SGA増加の人は13名だった。化学療法の副作用として、悪心・嘔吐、倦怠感が起こりやすく、SGAの増加が活動に影響するのではないかと考える。また、医療用麻薬の使用は、苦痛緩和のために必要である反面、眠気等の副作用が、認知機能や歩行に影響を及ぼすと考える。入院日から転倒発生までの日数は10日以内が59%で、転倒転落スコアの低い患者も含め、患者の状態や性格が把握できる入院後1週間に再評価することは転倒転落の軽減に繋がると考える。転倒した時間で多かったのは9:15~17:15で、看護師の勤務している人数が夜勤より多いにも関わらず、7名が転倒していた。患者の状況は日々変化するため、転倒転落スコアのみでは転倒リスク評価は不十分であり、看護師の経験や力量によって対応に差が生じている状況が明らかになった。今後は患者の特性や傾向に合わせ、「行動が落ち着かない」「何事も自分でやろうとする」という患者特徴をとらえ、適切な転倒予防対策をとることが重要である。

【結論】1. 転倒した患者の要因として、転倒転落アセスメントスコアシートの比較からは「認識力」と「排泄」であることが示唆された。2. 転倒した患者の傾向として、SGAの増加、入院後10日以内の転倒、日勤帯での転倒、担当看護師経験年数の少なさが見られた。